

NEO STATEMENT 2013

消えゆく境界～つながりのデザイン

モザイク人に注目しよう!!

1. 「境界」が消えていく

私たちの研究会（新世代ワークプレイス研究センター＝NEO）では、「未来のオフィス」をテーマに研究を続けてきました。

その結果、大きなトレンドとして「消えていく境界」ということに着目しました。

人類は、狩猟社会、農耕社会を経て、18世紀に英国で始まった産業革命を経て、「工業化社会」のステージに達しました。さまざまな機械が開発され、新たな動力源によってそれらの機械が巨大なパワーを発揮し、利便性を提供する——「機械文明」の時代には、多くの人々は工場やオフィスに勤めるようになり、そこでは「組織労働」というスタイルが成熟して行きました。

この時代には、いろんな「境界」が出現しました。

労働者は工場やオフィスという閉鎖空間に閉じ込められ、一定時間にどれだけ生産できるかという効率性を競うように仕向けられてきました。

生産を閉鎖空間で行う「空間の境界」、9時と5時の「時間の境界」、一人の人間が労働者であり生活者であるという「モードの境界」、さらには、組織の中の「部」「課」などの「組織の境界」など、我々は「境界だらけの世界」の中で窮屈に暮らしていました。

その境界が、20世紀末からにわかになくなり、消えていく兆候が表れました。そこで、研究会は、境界を越えて、人々が繋がる「つながりのデザイン」が必要だと考えました。

2. 「モザイク人」が登場した

いま、私たちの周囲に、「モザイク人」が増殖中です。

モザイク人とは、「複数の社会的役割を自律的に選択して、境界を越えて行動するマインドを持つ人」です。

これまで、多く的人是は企業で働くサラリーマン、主婦、自営業など、一つのタイトルで表され、それが社会における役割でした。

ところが、アフターファイブにボランティアをしたり、週末は別の仕事をしたり・・・そんなフレキシブルなワークスタイルを持つ人が、主に若者の間で増加中です。

私たち NEO（新世代ワークプレイス研究センター）は、未来のワークプレイスを考えていく中で、上記のようなスタイルに着目し、「モザイク人」と名付けました。

では、なぜ、モザイク人が出現し、増加しているのでしょうか？

大きな要因は、「生産手段のパーソナル化」です。

上述の機械文明の時代では、企業が用意する機械や設備などが「生産手段」で、そこに出勤しなければ、働くことができませんでした。

ところが、パソコンとインターネットの普及で、「いつでも」「どこでも」「思いついた時に」、パソコン（あるいはスマホやタブレット端末）のスイッチを入れれば仕事ができる環境になってしまったのです。

SNS や「つぶやき」で知り合った人がパートナーシップを組み、本来の仕事とは別に、新しいチームとしてビジネスをする・・・そうしたチャンスが広がっています。

「モザイク人」は研究会が考えてきた「消えゆく境界～つながりのデザイン」の象徴ともいえる“新人類”です。

3. モザイク人の活躍を伝えたい

従来の「専業」型の仕事では、往々にして、人々は企業側から要求されるタスクに追われ、それを達成することで報酬を得るという「従属的な働き方」を受け入れざるを得ませんでした。

モザイク人の特徴は「自律的な選択」です。主体的に、自分の能力を生かして仕事をする人が増えることは、とてもいいことです。

私たちの研究会は、モザイク人がもっともっと増え、得てして独立しがちだった彼らが、大企業の中でも、ビジネスに新たな可能性を開いています。そしてモザイク人の活躍が、企業自らが変化し元気になることにつながると信じています。

彼らが社会の牽引車になっていくために、私たちは、様々な角度で、「支援策」を考えています。

- 1) 企業の中で、モザイク人が活躍できるように、制度面でサポートできないか？
- 2) モザイク人が活躍しやすいワークプレイスとは何か？ 自己組織化するオフィス空間のようなものではないか？
- 3) モザイク人をサポートし、パートナーを見つけたりできる「リマッチング・プラットフォーム」が必要ではないか？ その機能は？
- 4) モザイク人をサポートする ICT ツールはどのようなものか？ 離れていても「お祭り」のような高揚感が得られる仕掛けはないか？
- 5) 企業活動から社会貢献まで多様な場で活躍しつつあるモザイク人。その活動の場を拡大するための人や運営のしくみ、ツール、空間などの「仕掛け」はどのようなものか？

「食べるために働く」という時代から、より快適に、より自律的に働くことで、成果達成の大きな喜びが得られる時代へ・・・2013年、私たちは、自らを変え、企業を、社会を変える船出の時を迎えました。

新しい時代の「つながりのデザイン」を求めて、皆さんとともにイマジネーションを膨らませましょう。 (以上)